

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## Lithic Culture in the Huánuco Region, Central Andes

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤井, 龍彦 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15021/00004646">https://doi.org/10.15021/00004646</a>

## 中央アンデス・ワヌコ地域の石器文化

藤 井 龍 彦\*

Lithic Culture in the Huánuco Region, Central Andes

Tatsuhiko FUJII

In this paper I have tried to analyze the nature of the pre-Columbian culture in the Central Andes, based on the lithic materials reported by the University of Tokyo Expeditions to the Huánuco region, the north central highland of Peru, of which I was a member.

The study of lithic objects in this area, although poor up to now, is more useful than the study of other objects in understanding past human cultures, for the lithic materials were utilized in many aspects of human activities, such as subsistence, livelihood, ritual or amusement and tools to make tools. Besides, in the Central Andes, iron tools were not utilized in pre-Columbian times, and other metals were used not for tools but rather for ornaments. Lastly, by investigating the sources of the raw material of lithic objects, we may suggest relationships between the place of origin and the locations where the objects were found.

In the Huánuco region, more than 1000 lithic objects were recovered (Table 1). Because of the different classification in each report, I have reclassified them into 40 types based on shape, technique and function. This table shows that about half of the total types had already been fabricated in the most ancient Mito period. There was thereafter little change in the complex of the lithic objects until the Sajara-patac period. It should be noted, though, that Chavín was the transitional period from chipped point to ground one, although the chipped artifacts continued till the Higueras period. The Higueras period saw the appearance of the rocker-mill and *batán*, which are still commonly used in Andean highland villages. From this information, it may be said that the basic form of the lithic culture in this region had been established in the Mito period, and that the traditional life pattern, which has continued up to the present, had been consolidated in the Higueras period.

\* 国立民族学博物館第4研究部

In order to analyze the nature of the culture, I have categorized these materials according to the aspects of human activities as mentioned above. From this categorization it can be said that most of the objects are tools to make tools; it can be noted also that the tools for subsistence are very poor throughout all periods, and do not vary according to the period.

The problem of the sources of raw material is very difficult to resolve now, because of the total lack of information in this field. In the Huánuco region we found stone which might have been brought from other region, such as obsidian, muscovite, sodalite, etc. To advance this study, the collaboration of the geologist is necessary.

As the materials I worked with here are limited in space and time, it would be meaningless to apply this conclusion to other parts of the Central Andes. This study is the first step, and I wish to continue it using materials of wider temporal and spacial context. As lithic objects tend at present to be somewhat neglected in excavation reports, however, it is requested that excavators provide more objective data with regard to these important materials.

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| I. はじめに              | 2. 石器の機能別分類 |
| II. Huánuco 地域の石器資料  | IV. 石質の問題   |
| III. Huánuco 地域の石器文化 | V. おわりに     |
| 1. 編年の考察             |             |

## I. はじめに

中央アンデスとは、南米太平洋岸中部のペルー高地と海岸、ボリビアの北西部を範囲とする地域を指し、インカ帝国に代表される高文明の栄えたところである(図1)。紀元前20,000年頃に始まり、1534年のスペイン人による征服と共に終るこの地域の先コロンブス文化の研究は、従来、遺跡における層位関係、C<sup>14</sup>による年代測定、そして先土器時代では石器の、それ以降では土器の型式分類に基づく編年研究を中心として行われて来た。考古学にとって編年研究は基本的なものであり、中でも加工が容易で変化に富む土器がその有力な資料として、従来の主な研究対象となっていた。しかし、考古学は遺跡、遺物の調査研究を通じて、過去の文化を復原することを目的とする学問であるという点から見れば、容器、煮沸器あるいは儀礼用を目的として作られた土器から得られるデータは決して多いとはいえない。

中央アンデス考古学における編年研究は、現在でも決して十分であるとはいえない

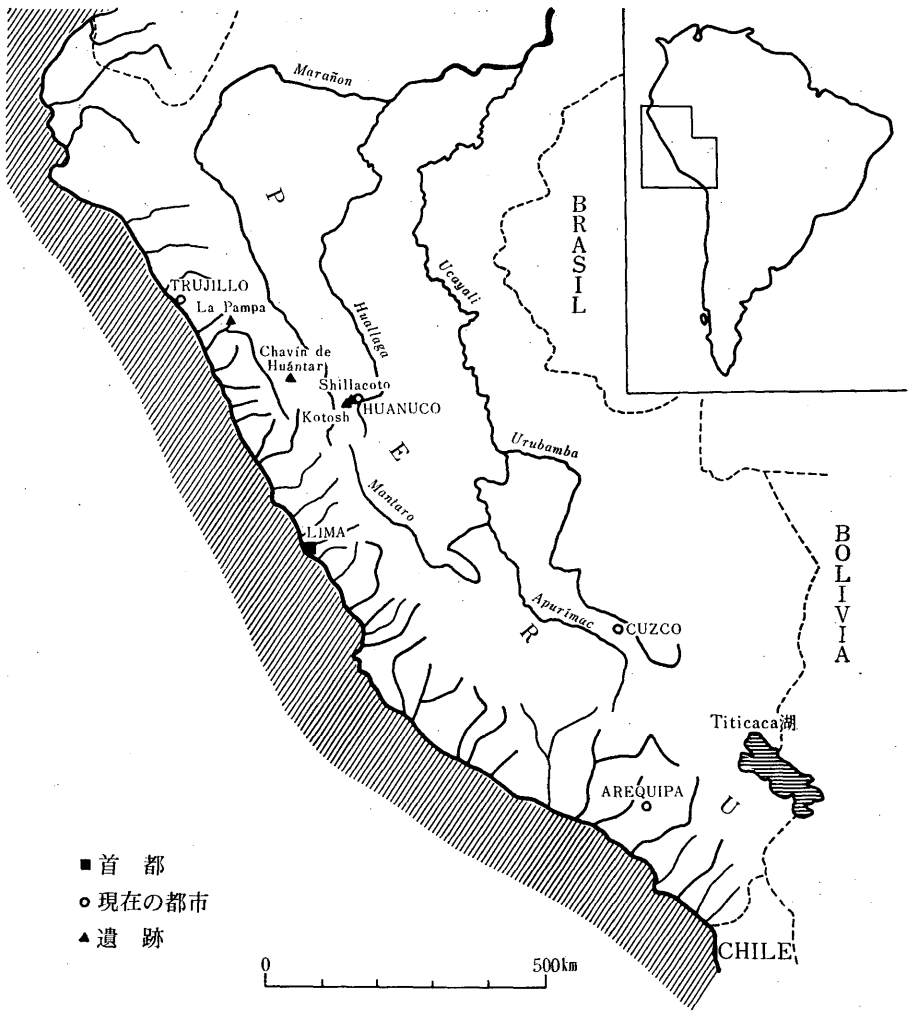


図1 中央アンデス地帯

が、いくつかの重点地域<sup>1)</sup>で一応の編年が確立しており、これからの研究の一方向としては編年研究から一歩進んで、生業、社会、経済、交易などの問題を追求し、この地域の文明の形成、発展の経過を明らかにして行く必要がある。そのためには、土

1) 北部海岸地方ではアメリカ合衆国アンデス研究所の一連の調査 [BENNETT, 1939, 1950], [BRD, 1948], [COLLIER, 1955], [FORD & WILLEY, 1949], [STRONG & EVANS, 1952], [WILLEY, 1953] とラルコ・ホイレの調査 [LARCO HOYLE, 1941, 1946, 1948]。南部海岸地方ではカリフォルニア大学による調査 [MENZEL, ROWE & DAWSON, 1964]。北部高地 Huánuco 地域では東大アンデス調査団によるもの [IZUMI & SONO, 1963], [IZUMI & TERADA, 1972], [IZUMI, CUCULIZA & KANO, 1972]。中部高地ではメンゼルによるもの [MENZEL, 1964, 1968]。ペルーアマゾン地域のレイスラプのもの [LATHROP, 1956, 1971]など。

器ばかりでなく、石器、骨角器、金属器などの人工遺物に関しては、従来の型式学的研究のみではなく、個々の遺物の機能や用途、材料の入手など、さらには遺物の組合せといった点に目を向けるべきであり、その他、植物、動物などの自然遺物の分析も一層正確に行われねばならない。一方遺跡に関しても、層位や建造物の構造だけではなく、立地、環境、集落形態そして建造物の機能、他の遺跡との関係など多くの角度から研究を進めて行かねばならない。

本論は、東大アンデス調査団および Huánuco 大学による、ペルー北高地 Huánuco 地域の発掘調査により出土した資料を扱い、中央アンデス石器文化の研究をめぐるいくつかの問題点を検討し、将来への展望を考えようというのが目的である。

本論に入る前に石器研究の意義について触れておくと、つぎのような点があげられるであろう。

1) 石器は他の遺物に比し、生産用具、生活用具、工作具、儀礼用具、装飾品、武器などとして使われ、文化のさまざまな面とかかわり合いを持っていること。

2) 材料である石材が変化に富み、場合によっては西アジアやメソアメリカで試みられている obsidian の例のように [CANN, DIXON & RENFREW, 1963: p. 588], [GROVE, 1974: p. 125] 石材の原産地の比定ができることにより、当時の交易、原産地と土地（使用地）との関係などをつかむ有力な手掛りになること。

3) 中央アンデス地帯のみならず、アメリカ大陸の先コロンブス文化の特殊性の一つに、鉄器が知られていなかったこと、また鉄以外の金、銀、銅や青銅などの金属器は、主として装飾品あるいは儀礼用具が主で、武器や工作具としては一般化していなかったということから、金属器に代る石器の重要性ということが考えられる。

中央アンデスの石器研究は、先土器時代に関しては Lanning, Patterson, Cardich 等を中心として行われてきた [LANNING, 1965], [LANNING & PATTERSON, 1967], [CARDICH, 1964]。しかし土器出現以降のものになると、大貫による形成期の石器研究 [ONUKE, 1967], Ford によるアメリカ大陸全体の形成期文化の比較研究の一部 [FORD, 1969: pp. 47-46] などにすぎず極めて少ない。一方調査報告書においても、土器出現以降はかなり詳しい土器の型式分類は行われても、石器に関する記述は比較的簡略で、石質の報告はおろか図や写真すら添えられていない場合もある。そのため、本論では筆者が発掘調査に参加し、遺物整理に当りあるいは資料を直接見ることができた Huánuco 地域の石器のみを扱った。

東大アンデス調査団による調査は、1960年、63年、66年の3期にわたり、同地域の Kotosh 遺跡を中心に行われた [IZUMI & SONO, 1966], [IZUMI & TERADA, 1972]。

Huánuco大学による調査は、1967年、同地域の Shillacoto 遺跡を対象に行われた [IZUMI, CUCULIZA & KANO, 1972]。筆者は1966年度の調査に参加し、また63、66年度の石器資料の整理、報告を担当した。本論はこの作業が基になっており、この機会を与えていただいた調査団長の故泉靖一教授に深く感謝の念を捧げる。また、整理、報告の作業中にお世話になった東大アンデス調査室のメンバーの方がた、東大考古学研究室の方がた、そして今回まとめるに際しいろいろ協力いただいた国立民族学博物館研究部の諸先生にお礼を申し述べたい。特に石毛直道助教授には下書きを読んでいただき、多くの助言を受けた。記して感謝の念を表す。なお、Kotosh 遺跡出土の原資料は東大アンデス調査室において整理、報告を行い、現在ペルー、リマ市の国立人類学考古学博物館に収蔵されている。Shillacoto 遺跡の資料は、報告者の一人の狩野および東大アンデス調査団のメンバーの宮崎、筆者により整理され、現在は Huánuco 大学に保管されている。

## II. Huánuco 地域の石器資料

Huánuco 地域は、中央アンデス北高地の南端に位置し (図1)、アンデス山脈の東斜面、一般に *Ceja de montaña* とよばれる地域に属する標高 2,000 m 前後の温暖なところである。これまでに、Kotosh, Shillacoto, Waira-jirca, Paucartambo などの遺跡が発掘され、その結果紀元前 2,000年前後から紀元前後にわたる文化の発展が明かにされ、最古の Mito 期に始まり、Waira-jirca, Kotosh, Kotosh Chavín, Sajarapatac, Higuercas 期と続く編年が確立されている<sup>2)</sup>。

これまでの調査の結果、1,000点を越す石器が出土したが、これらの資料はそれぞれの報告書において異った分類名が与えられている。しかし全体を把握するためには共通の名称で統一する必要があるため、筆者は仮に以下のような分類を試みた。なお( )内は原報告書の分類名を示す。

**Chipped point** (chipped projectile point) 図2:1~9. percussion および pressure-flakingにより加工された打製石器で一端または両端の尖ったもの。物を切り、突き、削るという機能が考えられる。海岸地方での出土例 [ENGEL, 1966: p. 180] からみて、投槍に使用されたと考えられるが、Lima市の黄金博物館に陳列されている例に、短い柄のついたものがあり、有柄のナイフとしての使用も考えられる。石

2) これらの期の中、Mito 期は採集、原初農耕文化期の Archaic Stage 末期に、Waira-jirca 期から Sajarapatac 期は定住農耕文化期の Formative Stage に、Higuercas 期は地方文化発展期の Classic Stage 前期に属する。

材は Mito 期のものは chert, flint, quartzite 製, Kotosh 期は chalcedoney, Chavín 期には obsidian 製が現れる。

**Ground point** (polished projectile point) 図 2 : 10~14。slate, phyllite など、比較的軟らかい石を用いた磨製の尖頭器。用途は打製尖頭器と同じと考えられる。

**Indefinite-shaped flake** (chipped stone object) 図 3 : 1~5。大小さまざまな剥離された石片で、形は一定していない。縁部の二次加工は小型のものに多くみられ、scraper, graver, knife などの用途が想定される。大型のものは楔状あるいはくわ状を呈し、木工具、土掘り具であったとも考えられる。

**Spokeshave** 図 3 : 6。縁部に凹んだ加工痕のある石器。Huánuco 地域では平礫の一端を加工したものただ一例が出土している。

**Core** 図 3 : 7。礫あるいは割石で、全面あるいは一部から剥片をとられたもの。剥片の数に比し、出土例は極めて少ない。使用痕のないものは道具としては認められないが、一部に打痕があり、たたき石 (hammerstone) としての用途が考えられるものもある。

**Chipped ax** (chipped and notched ax) 図 4 : 1~3。一端に刃を持つ打製石器。礫を加工したものと schist 製のものがある。上部両側にある袈りは着柄のためと考えられる。

**Ground ax** (T-shaped polished ax, large polished ax, polished stone ax, polished and notched stone ax) 図 4 : 4~10。一端に磨研による刃のつけられたもの。頭部両側に着柄のための耳を持つ T 字型が多く、その他に少数の抉入型がある。T 字型の場合頭部に浅い溝を持つ例もみられる。耳の形、大きさは一定していない。耳から下の刃部が比較的短かくバランスの悪いものがあるが、これらは刃部を破損した後の再加工の結果と考えられる。

**Ground celt** (polished stone ax) 図 5 : 1。断面が矩形に整形され、一端に刃を持つ石器。ただ一例のみで破損のため刃部しかなく着柄の状態は不明。報告書では ax となっているが、Ford は Ecuador の例との比較により celt に分類している [Ford, 1969: p. 51]。

**Chisel** 図 5 : 2。小型、断面方形、棒状の石の先端に刃のあるもの。着柄の痕は認められず、おそらく手に持って使用されたのであろう。

**Ground knife** (polished stone knife) 図 5 : 3。slate を有茎の point 型に加工したもので、一縁には刃がつけられ、他縁は鋸歯状に加工されている。

**Edged slate** (polished stone knife) 図 5 : 4~6。主として slate 製板石で、

長方形、半月形がある。一縁に刃を持ち、また刃と平行に擦痕がみられるところから knife と考えられるが、この擦痕は他の部分にもみられ、使用痕か加工痕かの判別がつけ難い。一方刃部に刃と直行する擦痕が認められるものもあり、壁の上塗りをする“こて”的な用途も想定できよう。

**Hand pebble** (ground stone ball, *bola*, *mano*, ball) 図 5 : 7~11。径 10.6 cm から 2 cm までにわたる大小さまざまな礫。形は球形、卵形、まんじゅう形、不定形など変化に富む。自然の礫を利用したもので、擦痕、打痕あるいは摺石として使用した結果の 1 つないし 2 つの平らな面を持つ。その他の加工痕は認められない。用途は grinding slab の上石としての磨石の他、たたき石が考えられる。小型のものは投石 (*honda*) とも想定されているが確証はない。

**Grooved pebble or bola** 図 5 : 12。胴部に pecking により浅い溝をつけた礫。海岸地方出土の類似品は, net sinker [ENGEL, 1963: p. 56] あるいは hammerstone [STRONG & EVANS, 1952: p. 42, Fig. 7-C] と報告されている。Huánuco 地域の出土例は 1 つだけであり、時期も不明であるが、石に紐をつけて投げる武器あるいは狩猟具としての *bola* であるか否か将来の検討が必要であろう。

**Grinding slab** (*metate*, pallet) 図 6 : 1~5。主として phyllite あるいは schist 製平石の上面に浅い凹みをつけたもの。上部がほとんど平らな例 (図 6 : 4) も 1 例ある。hand pebble と共に使用し、食料、調味料、あるいは顔料、粘土などをつぶすための道具と考えられる。凹部に赤色顔料の残っている例もある。上石は前後運動よりむしろ回転運動を主としたと思われる。

**Mortar** 図 7 : 1~3。板石あるいは礫の上面に凹みを持つもの。grinding slab との相異は、凹部の平面形が円に近く、またより深い点にある。上石は pestle と考えられるが出土例は少なく、あるいは hand pebble が使用された可能性もある。用途は grinding slab と同じであろう。

**Pestle** 図 7 : 4~6。棒状の石で先端が使用の結果丸く磨耗しているもの。pestle としては Shillacoto の 2 例 (図 7 : 4, 5) のみが報告されているが、Kotosh 出土例の中 hammerstone [IZUMI & TERADA, 1972: pl. 137 の 1, 2], rubbing pebble [IZUMI & TERADA, 1972: pl. 137 の 3] あるいは unidentified polished stone とされる棒状石製品 [IZUMI & SONO, 1966: pl. 172 の 12, 14, 15] などは pestle である可能性が大きい。一方 Shillacoto の例のうちの 1 例 (図 7 : 5) は、その形状からむしろ clubhead などの perforator と考えた方が良くかもしれない。

**Rocker-mill** (*mano*, rocker-*mano*) 図 7 : 7。大型の何れも 3 kg を越す細長い



礫で一縁がゆるくカーブしている。面端を握り交互に揺らして食料，調味料などを加工したもの。*batán* と組合せて使用する。

**Bátan** かなり大きな両面の平らな自然石。上面は使用の結果かなり滑らかになっている。*rocker-mill* の下石。

**Stone hammer** (large polished stone ax, polished stone hammer) 図8：1～3。礫を加工し，着柄のための耳をつけたり，胴部に穴をあけたもの。刃はつけられていない。図8：1は報告書 [IZUMI & SONO, 1966: p. 123] で *ax* とされているが，大きさ，刃部の形から *hammer* と考えた方がよいであろう。

**Hammerstone** 図8：4，図9：1～5。自然石をあまり加工せず，手掛りの凹みや抉りを入れたもので，1つ以上の打痕を持つ。*stone hammer* との相異は加工の程度にあり，用途は同じ。

**Rubbing pebble** 小型の礫で，通常やや扁平。使用痕として1～数個の平らな面を持つ。大きさの他多くが *serpentine* のような硬い石で作られている点 *hand pebble* と異なる。用途としては土器の器面調整が考えられる。

**Club head** (polished club head) 図10，図11。中心に孔を持つ環状の石で径6cm以上の大きいもの。形によりドーナツ形，球形，有稜，有溝，突起付，星形，帯付に分けられる。突起付，星形，帯付は *Higueras* 期にのみみられる。中に棒あるいは綱を通して，武器あるいは狩猟具として用いられたと考えられる。

**Vessel** (stone bowl) 図12：1～7。内外共極めて良く磨研された容器。形は皿状，深鉢状があり，脚付，刻文付のものもみられる。小型の例(図12：3)は容器というより *mortar* である可能性が強い。

**Spindle whorl** 図13：1～5。中心に孔を持つ小型の石製品。円盤状，算盤球状，球形などの例がある。小型のものの場合 *pendant* あるいは *bead* との区別が難かしい。

**Pendant** 図13：6～19。1～数個の小孔を持つか，両側に抉りのある小型の石製品。特殊なものとして *ground point* を利用したもの(図13:16)，あるいは下端に刃のつけられた *knife* あるいは *adze* としての機能を持つものもある(図13:17, 19)。

**Bead** 図13：20～29。非常に小型の石製品で，1個の小孔を持つもの。形は円筒形から不整形まで変化に富む。

**Earring** (ear plug) 図13：30。車輪型の小型の石製器。3例のみ出土しており，いずれも *pully type* で，土製品の例のように [IZUMI & TERADA, 1973: pl. 128 の 18] スポーク状の支えはつけられていない。

**Unperforated ornament** 図13：31, 32。小型で仕上げの良い石製品。使用痕はみられないため pendant などの未製品と考えられる。

**Jet mirror** 図14：1～4。jet (黒玉) といわれているが何れも coal 製で、その質、磨研の程度により実際に光を反射するものとしめないものがある。矩形と円形があり、裏面に凹みを持つもの(図14：3)もみられる。しかし海岸地方の例 [LARCO HOYLE, 1941: p. 99. Fig. 146] [STRONG & EVANS, 1952: p. 42, Fig. 7, H. K.] のように把手付のものはみられない。

**Figurine** 図14：5～9。小礫を加工して人物を表したものの他に、石斧状のものが2例出土している。この2例は Mito 期に属し、大型のものは石斧の未製品とも考えられるが、小型のものと全く同じ形をしているため、ここに分類されている。

**Disk-shaped object (stone disk)** 図15：1, 2。比較的小型で、周縁および両面とも磨研された円板。用途は不明であるが、spindle whorl あるいは pendant の未製品とも考えられよう。

**Elongated object (stone object of unknown use)** 図15：3～6。一部ないし全体が磨研加工された棒状の石製品。前述のようにこれらのあるものは pestle として使用された可能性がある。その他土器整形用具などの機能も考えられよう。

**Flat tabular object (thin slate with engraved design)** 図15：7～10。小型の板石。一端を磨研して鈍い刃のように加工してあるもの。表面に刻文を持つものなどもみられる。用途は不明。

**Perforated object (perforated flatstone)** 図15：11～14。多くが schist または phyllite 製で、形は不定。中央または一方に寄って両側からせん孔されている。孔の径が比較的小さい所から、棒ではなくむしろ紐などを通したと考えられる。用途としては、垂直機の錘り [TELLO, 1960: p. 306] が想定されているが、現在の中央アンデスで垂直機は殆んど行われていない。

**Notched object** 図16：1～4。大部分が schist 製で、片側または両側に抉りが入っている。抉りの部分が磨耗しているものもあり、perforated object 同様紐でしばって何かの錘りとして使用されたのであろう。

**J-shaped object** 図16：5, 6。sandstone 製で、Jの字を逆にした形の石製品。海岸地方の出土例 [ENGEL, 1966: p. 182] から、投槍器の hook として使用されたと推定される。

**Abrader** 不定形の平石で、表面に擦痕がみられ砥石としての用途が推定されるもの。

**Slab** 図16：7，8。1例は大型の schist 製板石で、表面に5個の小さな凹みがつけられている。Waira-jirca 期の墓壇の中から出土したもので、用途は不明。もう1例は Higueras 期の住居址内に立っていたものである。この立石は上端に抉りのあるものが一般的であるがこの例は両側が鋸歯状に加工された特殊なものである。用途は不明であるが、いざり機の紐を固定するためという考えもある [IZUMI & TERADA, 1972: p. 254]。

**Mica object** 雲母製品。ここだけ石質名で分類するのは少しおかしいが、極めて特殊なものであるので、あえて独立させた。小孔のあるものもみられ、pendant とも分類できよう。

**Miscellaneous** 図16：9，10。何とも命名しようのない石製品で、1例はやや反った板石の一面に小突起のついたもの、他例は雪だるま形で、2つの凹みを持つものである。何れも pendant として報告されている。凹みの部分に油を入れればランプとしての用途も考えられるが、そのような痕跡もみられず用途、機能は不明である。

### Ⅲ．Huánuco 地域の石器文化

#### 1. 編年的考察

前章で述べた 40 types の石器の各時期別の分布は表1に示す通りである。時期による石器の数が一定せず、また時期不明のものが20%もあるので、この表からすぐに結論を引き出そうとするのは危険であるが、ある程度の傾向はつかめると考えて良いであろう。これを見て気がつくことは、まず 40 types の石器の中、実に半数近い 17 types はすでに最古の Mito 期にみられ、また一つの時期にしか現れないもの 8 types を除くと、その割合は半分を越えるということ。一方 Mito 期にみられないものの中で hand pebble は、同期に grinding slab がある以上当然あったと想定できるし、bead も装飾品としては一般的なものであり、同期の装飾品の質が高いことと考え合せても、なかったとは考えにくい。残る club head であるが、その用途が主として戦闘用武器であるとするれば、これがないということは当時の社会を考察する上の有力な資料になるであろう。

その他の石器の中、edged slate は Kotosh 期と Waira-jirca 期にのみみられる。この事実は、この石器の用途、機能を考えるに当り、当時の建造物、土器その他の道具の製作法などを考慮しなければならないことを示している。一方、spindle whorl, J-shaped object は Chavín 期以降のみにみられるが、これらは石器以外の土製品、

表1 コトシュK T, KMマウンドおよびシャコト遺跡出土石器の時期別分布表

 (Table 1 Chronological distribution of stone artifacts excavated from the Kotosh  
 KT mound, KM mound and Shillacoto)

TYPE	PERIOD	H	SP	Ch	K	W	M	時期不明	Total
Chipped point		—	1	4	5	14	29	4	57
Ground point		19	37	6	—	—	—	8	70
Indefinite-shaped flake		—	1	—	—	5	52	—	58
Spokeshave		—	—	—	—	—	—	1	1
Core		1	—	—	—	—	3	1	5
Chipped ax		—	—	1	—	2	1	3	7
Ground ax		12	18	4	2	8	6	11	61
Ground celt		1	—	—	—	—	—	—	1
Chisel		—	1	—	—	—	—	—	1
Ground knife		—	—	—	—	1	—	—	1
Edged slate		—	—	—	4	10	—	—	14
Hand pebble		43	44	11	5	6	—	17	126
Grooved ball or bola		—	—	—	—	—	—	1	1
Grinding slab		16+	12	—	—	1	2	3	34+
Mortar		1	1	1	—	1	1	—	5
Pestle		—	—	—	—	—	—	3	3
Rocker-mill		13+	—	—	—	—	—	—	13+
<i>Batán</i>		1+	—	—	—	—	—	—	1+
Stone hammer		2	—	—	—	—	—	2	4
Hammerstone		5	2	—	—	2	—	5	14
Rubbing pebble		2	7	3	2	—	—	—	14
Club head		48	25	3	4	4	—	10	94
Vessel		1	3	3	—	6	—	4	17
Spindle whorl		2	4	1	—	—	—	9	16
Pendant		12+	19+	6+	4+	5+	5+	33+	84+
Bead		9+	9+	10+	3+	1+	2	34	68+
Earring		2	1	—	—	—	—	1	4
Unperforated ornament		—	1+	1+	—	—	3+	4+	9+
Jet mirror		—	2	4	5	6	—	—	17
Figurine		—	1	—	1	—	3	3	8
Disk-shaped object		13	14	7	4	2	2	13	55
Elongated object		4+	20+	4+	1+	5+	7+	10+	51+
Flat tabular object		3+	2+	5+	5+	3+	3+	5+	26+
Perforated object		4	2	2	—	1	1	5	15
Notched object		3	3	3	—	—	—	3	12
J-shaped object		5	—	1	—	—	—	3	9
Abrader		—	1	1	—	1	1	—	4
Slab		1	—	—	—	1	—	—	2
Mica object		7	4	—	—	—	2	5	18
Miscellaneous		14	15	4	4	1	1	11	50
GRAND TOTAL									1050+

数字の後に+印のあるものは、その数以上の例があることを示す。

骨角器にも同じ形のものがあり、これらを合せて考える必要がある。

その他特に注目されることは、Chavín 期を境に *chipped point* から *ground point* への移行がみられること。*jet-mirror* が Waira-jirca 期から Sajarapatac 期にかけて、つまりまさに形成期と名付けられた期間にのみ使用されたことがあげられる。

最後に、*rocker-mill* と *batán* という組合せが、Higueras 期に始まるということ、また表 1 には示されていないが、*club head* の中、単純な円形以外のものはいずれも Higueras 期にのみみられるということがあげられる。*rocker-mill* と *batán* の組合せという独特の加工法は、現在でも中央アンデスの農村地帯に広くみられるものであり、一方星型を主とする *club head* は、インカ期まで伝統的に使われたということ、さらに金属器が出現するのも Higueras 期になってから [IZUMI & SONO, 1966: p. 151] という点も考え合せると、インカ時代まで続いた中央アンデス高地の伝統的な生活形態は、この頃に確立したという可能性が強いと考えられる。

## 2. 石器の機能別分類

前章でこの地域の石器を40の type に分類したが、これはあくまでも一応客観的な規準、つまり主として形態、加工技術を主として分類したもので、人類の生活との関連を明かにするためには、これらをその用途、機能を考えながら別の規準で再分類する必要がある。この作業を行う上で問題になるのは、全く用途の不明な石器をどうするかということであるが、ここでは一応確証はないが推測を混じえて次のような分類を行ってみた。

A) 生産用具 a) 狩猟 *chipped and ground point*, *J-shaped object*, *club head*, *bola*, *hand pebble* b) 漁撈 なし c) 採集 *edged slate?*, *ground knife?*, d) 農耕 *club head?*, *indefinite shaped flake (hoe?)*

B) 生活用具 a) 衣 *pendant*, *bead*, *earring*, *unperforated ornament*, *perforated and notched object?*, *spindle whorl*, *slab*, *mica object* b) 食 *grinding slab*, *hand pebble*, *rocker-mill*, *batán*, *mortar*, *pestle*, *vessel*, *indefinite-shaped flake*, *hammerstone* c) 住 *edged slate?* *grinding slab*, *hand pebble*, *rocker-mill*, *batán*

C) 工作具 a) 木工 *chipped and ground ax*, *celt*, *chisel*, *indefinite-shaped flake*, *spokeshave*, *ground knife?*, *stone hammer*, *hammerstone* b) 石工 *stone hammer*, *hammerstone*, *abrader*, *rubbing pebble* c) 土器製作 *rubbing pebble*, *elongated object*, *disk-shaped object*, *flat-tabular object*, *grinding slab*, *hand*

pebble, rocker-mill, *batán*, mortar, pestle d) 骨角器製作 abrader, hammerstone, ground knife?, edged slate?, indefinite-shaped flake

D) その他 (祭祀, 戦闘, 儀礼, 娯楽等) jet mirror, club head, figurine, mortar, vessel

さて、以上のように分類した際注目される点は、生産用具類の非常に貧弱なことが挙げられる。海、湖のないこの地域に漁撈具がないのは当然としても、他の道具類はその種類も少ないし、時代的变化もあまり認められない。少なくとも石器を通してみる限り、Huánuco 地域でいつ農耕が開始されたか判断することは難しい。この原因としては、中央アンデス地帯の主作物であるトウモロコシ、ジャガイモの耕作には、簡単な掘棒と土寄せの道具さえあれば充分、極端に言えばそれすら必要とせず人間の手足のみで事足りるという事情が大きく作用している。

一方生活用具に関しても、前述のように Higueras 期に rocker-mill と *batán* という新しい調理具が現れたという以外、目立った変化はみられない。中で注目されることは、Mito 期の装飾品の仕上げが非常に良いということである。これはこの期の遺構の性格が、「交叉した手の神殿」<sup>3)</sup>に代表されるように、祭祀的性格を強く示していることと関連があろう。工作具に関しても、全期を通じて T 字型磨製石斧という形態的に特異なものを除き、穿孔用のドリル、あるいは砂岩の鋸などの特殊化したものはみられず、周辺の適当な石を利用したにすぎないものが大部分を占めている。

以上をまとめてみると、Huánuco 地域の石器文化は、前2,000年前後の Mito 期に既にその基礎的な部分はでき、その後時期によっていくつかの特殊なものが現れたが、紀元前後の Higueras 期に、ほぼインカ期にまで続く伝統が形成されたといえる。またその内容は決して豊富とはいえず、むしろ貧弱であるという点が興味深いところで、この事実は金属器が装飾品、儀礼用具として以外は発達しなかったことと結びついて、中央アンデス文化の性格の一端を示すものと考えられよう。

#### IV. 石質の問題

はじめにも述べた通り、石器研究において材料である石の質は重視されなければならない。Huánuco 地域においては、40種以上の石が使われている [IZUMI & TERADA, 1972: p. 355 ff.]. これらの大部分は、遺跡の傍を流れる Higueras, Huallaga 両川の河原石や、付近の山肌に露出している岩石を利用したものであるが、obsidian,

3) 建物の奥壁に左右2つ、交叉した手の浮彫りがあることから名付けられた建物。現在その浮彫りの意味は不明であるが、何らかの宗教的、祭祀的意味を持つものと推察されている。

muscovite, sodalite, serpentine, coal などの特殊な石は、他の場所から持って来られたものと考えられる。しかし残念なことに obsidian 1つをとってみても、その産地がどこにあるかという報告はされていない。この問題は石器研究の今後に残された大きな課題の一つといえよう。

## V. お わ り に

以上、Huánuco 地域の石器資料を中心に検討を進めて来たわけであるが、ここでそのまとめおよび今後の研究上の問題点を述べる。ただし、本論は地域的にも、時代的にも限られた資料を基にしているの、今後は中央アンデスの他の地域、更には隣接地域との関係、そして時間的にはインカ期にまで下った資料を使って研究を進めて行く必要があるのはいうまでもない。

1) Huánuco 地域の石器文化は、紀元前2,000年前後の Mito 期にその基礎が形成され、紀元前後の Higueras 期には、インカ期まで続く伝統文化として成立していた。しかしその内容に関しては、今回の資料から見る限りかなり貧弱で、特に生産用具関係にそれが著しい。また工作具関係においても、T字型石斧という特異な形態のものを除くと特殊化した工具がないという点も一つの特徴である。

2) 石質の問題は、石器文化研究上非常に重要なことであるにもかかわらず、従来はどちらかといえば軽視されてきている。しかしこの問題の解決のためには、地質学者、地理学者との協力が是非必要である。

3) 最後に石器の分類の問題がある。II章でも述べた通り、石器の分類名は報告者によりいくつかの異ったものが使用されている。これらは将来統一的に整理して行かなければ、報告書のみ頼り実物を見るができない場合、石器の比較研究は行えないということになりかねない。

分類の規準としては、機能、形態、加工技術などがあり、一般にはこれらを組み合わせて一つの“type”として分類、命名が行われている。土器の型式分類が、器形、寸法、器面の色と調整法、胎土とテンパー、装飾などかなり客観的な基準で行われているのに比し、石器の場合機能というきわめてとらえ難い要素が入ってくるため、客観的な分類は難しい。また石器の場合万能石器ともいわれる chopper の例のように、一つでいくつかの機能を持つものがありこの問題を一層複雑にしている。そのため一

部には分類の規準から機能をはずそうという傾向もみられる [COHEN & VON NOTEN, 1971: p. 211]。しかし、はじめにも述べたように過去の文化の復原ということが考古学の目的であるとすれば、それぞれの石器の機能、あるいは用途というものはあくまでも追求されるべきものである。

結局、型式分類における研究者の共通認識というものがない、あるいはそれを作ろうとしない現在、報告書においてはできるだけ客観的かつ多くの情報を提供することが発掘者の義務であり、今後の研究を進展させる方向であるといえよう。

## 文 献

- BENNETT, W. C., 1939, "Archaeology of the North Coast of Peru", *Anthropological Papers*, Vol. 37, Pt. 1, pp. 1-153, American Museum of Natural History, New York.
- , 1950, "The Gallinazo Group, Virú Valley, Peru", *Yale University Publications in Anthropology*, No. 43.
- BIRD, J. B., 1948, "Preceramic Cultures in Chicama and Virú", *A Reappraisal of Peruvian Archaeology*, W. C. BENNETT, ed., Society for American Archaeology, Memoir No. 4, pp. 21-28, Menasha.
- CANN, J. R., J. E. DIXON & COLIN RENFREW, 1963, "Obsidian Analysis and the Obsidian Trade", *Science in Archaeology*, D. BROTHWELL & E. HIGGS, eds., Thames & Hudson, London.
- CARDICH, Augusto, 1964, "Lauricocha", *Studia Praehistorica III*, Centro Argentino de Estudios Prehistóricos, Buenos Aires.
- COHEN, D. & F. VON NOTEN, 1971, "Stone Age Typology: Another Approach", *Current Anthropology*, Vol. 12-2, pp. 211-215, Robert MacLehose & Co. Ltd., Glasgow.
- COLLIER, D., 1955, "Cultural Chronology and Change as Reflected in the Ceramics of the Virú Valley, Peru", *Fieldiana: Anthropology*, Vol. 43, Chicago Natural History Museum, Chicago.
- ENGEL, Frédéric, 1963, "A Preceramic Settlement on the Central Coast of Peru: Asia, Unit 1", *Transactions*, Vol. 53, Pt. 3, American Philosophical Society, Philadelphia.
- , 1966, *Paracas: Cien Siglos de Cultura Peruana*, Juan Mejía Baca, Lima.
- FORD, J. A., 1969, "A Comparison of Formative Cultures in the Americas: Diffusion or the Psychic Unity of Man", *Smithsonian Contributions to Anthropology*, Vol. 11 Smithsonian Institution Press, Washington D.C.
- FORD, J. A. & G. R. WILLEY, 1949, "Surface Survey of the Virú Valley, Peru", *Anthropological Papers*, Vol. 43, Pt. 1, American Museum of Natural History, New York.
- GROVE, D. C., 1974, "The Highland Olmec Manifestation: A Consideration of What it is and isn't", *Mesoamerican Archaeology*, Norman HAMMOND, ed. pp. 109-128, University of Texas Press, Austin.
- IZUMI, S. & T. SONO, 1966, *Andes 2: Excavations at Kotosh, Peru, 1960*, Kadokawashoten, Tokyo.
- IZUMI, S. & K. TERADA, 1972, *Andes 4: Excavations at Kotosh, Peru, 1963 and 1966*, University of Tokyo Press, Tokyo.
- IZUMI, S., P. J. CUCULIZA & C. KANO, 1972, "Excavations at Shillacoto, Huánuco, Peru", *Bulletin No. 3*, The University Museum, University of Tokyo, Tokyo.
- LANNING, E. P., 1965, "Early Man in Peru", *Scientific American*, Vol. 213-4, pp. 68-76, Scientific American Inc., New York.
- LANNING, E. P. & T. C. PATTERSON, 1967, "Early Man in South-America", *Scientific American*, Vol. 217-5, pp. 44-50, Scientific American Inc., New York.



- LARCO HOYLE, R., 1941, "La Crónica y Variedades", *Los Cupisniques*, Casa Editora, Lima.
- , 1946, "A Culture Sequence for the North Coast of Peru", *Handbook of South American Indians*, J. H. Steward, ed. Vol. 2, pp. 149-175, Bulletin 143, Bureau of American Ethnology, Smithsonian Institution, Washington D.C.
- , 1948, *Cronología Arqueológica del Norte del Perú*, Hacienda Chiclín, Trujillo.
- MENZEL, D., 1964, "Style and Time in the Middle Horizon", *Nawpa Pacha*, No. 2, pp. 1-106, Institute of Andean Studies, Berkeley.
- , 1968, "New-Data on the Huari Empire in Middle Horizon Epoch 2A", *Nawpa Pacha*, No. 6, pp. 47-114, Institute of Andean Studies, Berkeley.
- MENZEL, D., J. H. ROWE & L. E. DAWSON, 1964, "The Paracas Pottery of Ica, A Study in Style and Time", *University of California Publications in American Archaeology and Ethnology*, Vol. 50, The University of California Press, Berkeley.
- ONUKE, Yoshio, 1967, "Los Objetos Líticos de Kotosh y su Significación para el Período Formativo de los Andes Centrales", *Bunka-Jinruigaku*, No. 1, pp. 125-149, Tokyo Daigaku Bunka-Jinruigaku Kenkyukai, Tokyo.
- STRONG, W. D. & C. EVANS, 1952, "Cultural Stratigraphy in the Virú Valley, Northern Peru", *Archaeological Studies in Peru, 1941-1942*, W. D. STRONG, G. R. WILLEY & J. M. CORBETT eds. Columbia University Studies in Archaeology and Ethnology, Vol. 1-2, Columbia University Press, New York.
- TELLO, J. C., 1960, Chavín, Cultura Matriz de la Civilización Andina, Primera Parte, *Publicación Antropológica del Archivo "Julio C. Tello"*, Vol. 2, Universidad San Marcos, Lima.
- WILLEY, G. R., 1952, "Prehistoric Settlement Patterns in the Virú Valley, Peru", *Bulletin* 155, Bureau of American Ethnology, Smithsonian Institution, Washington D.C.

図版引用石器の説明<sup>4)</sup>

- 図 2 1, IT 143-1 *l.* 5.5 cm M 2, IS 168-1 *l.* 9.7 cm M 3, IS 168-6 *l.* 8.3 cm W 4, ICK 58-5 *l.* 6.8 cm W 5, IT 141-1 *l.* 6 cm W 6, ICK 58-3 *l.* 4.7 cm K 7, IT 140-21 *l.* 4.4 cm K 8, IT 139-1 *l.* 4 cm Ch 9, IT 139-2 *l.* 3.3 cm Ch 10, IS 167-3 *l.* 8 cm Ch 11, IT 135-9 *l.* 6.2 cm SP 12, IS 167-4 *l.* 8.1 cm SP 13, IT 156-10 *l.* 19 cm H 14, IT 132-1 *l.* 10.3 cm H
- 図 3 1, IT 143-20 *l.* 3.5 cm M 2, IT 143-32 *l.* 7.1 cm M 3, IT 144-9 *l.* 7.2 cm M 4, IT 141-6 *l.* 10 cm W 5, IT 145-1 *l.* 14.1 cm M 6, IT 157-7 *w.* 8 cm 7, IT 144-14 *l.* 12.5 cm M
- 図 4 1, IT- 145-5 *l.* 8.6 cm M 2, IT 157-6 *l.* 8.5 cm 3, ICK 55-4 *l.* 13.8 cm 4, ICK 54-1 *l.* 8 cm 5, ICK 54-2 *l.* 8.6 cm 6, IS 165-7 *l.* 8.4 cm SP 7, IT 135-14 *l.* 7.7 cm (SP) 8, IT 132-9 *l.* 9.9 cm H 9, IT 135-18 *l.* 6.3 cm (SP) 10, ICK 55-1 *l.* 10.7 cm K or W
- 図 5 1, IS 166-12 *w.* 3.7 cm H 2, IS 172-13 *l.* 7.5 cm SP 3, ICK 58-11 *l.* 11.4 cm W 4, ICK 57-2 *l.* 13.4 cm K 5, IS 166-11 *w.* 11.7 cm K 6, IT 141-8 *l.* 10.5 cm W 7, IT 133-9 *l.* 8 cm H 8, ICK 60-5 *l.* 9.5 cm W? 9, IT 136-9 *l.* 9.6 cm SP 10, IT 136-11 *l.* 9.3 cm SP 11, IS 175-6 *d.* 4.7 cm 12, IS 175-9 *l.* 8.1 cm
- 図 6 1, IS 177-2 *l.* 29 cm H 2, IT 136-19 *l.* 19.7 cm SP 3, IT 136-23 *l.* 43 cm SP 4, IT 142-5 *l.* 26 cm W 5, IT 146-1 *l.* 34 cm M
- 図 7 1, IT 133-12 *l.* 14.3 cm H 2, IT 136-17 *l.* 18 cm SP 3, IT 145-7 *d.* 16.6 cm M 4, ICK 60-7 *l.* 13.5 cm 5, ICK 60-8 *l.* 11.7 cm 6, ICK 60-10 *d.* 4.7 cm 7, IS 177-7 *l.* 32.7 cm H
- 図 8 1, IS 165-1 *l.* 20.8 cm H 2, IS 176-5 *l.* 23.2 cm 3, IS 176-4 *l.* 23.3 cm Ch 4, IT 157-4 *l.* 12.2 cm
- 図 9 1, IT 140-24 *d.* 9.3 cm (K) 2, IT 133-15 *d.* 12.2 cm H 3, ICK 55-5 *l.* 10.4 cm K or W 4, IT 138-18 *l.* 12.6 cm-SP- 5, IT 142-6 *l.* 16.2 cm W
- 図 10 1, IS 174-2 *d.* 6.3 cm H 2, IT 158-6 *d.* 8.3 cm H 3, ICK 56-4 *l.* 14.3

4) 説明の中、番号の後のイニシアルは IS は [IZUMI & SONO, 1966], IT は [IZUMI & TERADA, 1972], ICK は [IZUMI, CUCULIZA & KANO, 1972] による資料を示す。次の数字は上記原報告書中の図版番号, *l.*, *w.*, *d.*, *h* は長さ, 巾, 径, 高さを, 最後の H. SP. Ch. K. W. M のイニシアルは Higueras 期から Mito 期までの時期に属することを示す。ないものは時期不明, ( ) 内は推定値または推定時期。

- cm K 4, IT 137-8 *d.* 9.8cm SP 5, IT 142-8 *d.* 10.6cm W 6, IS 173-7 *d.* 10.3cm H 7, IT 137-4 *d.* 7.3cm SP
- 図 11 1, ICK 56-1 *d.* 6.9cm K 2, ICK 56-3 *d.* 6.9cm H 3, IS 173-8 *d.* 10.9cm W 4, IS 174-8 *h.* 6.5cm H 5, IS 174-11 *h.* 5.8cm H 6, IS 194-13 *w.* 7.8cm H 7, ICK 56-8 *w.* 8.9cm H 8, IS 174-12 *w.* 8.8cm H 9, IS 174-4 *h.* 5.9cm H
- 図 12 1, IT 138-1 *d.* (20cm) (SP) 2, IT 139-18 *d.* (15cm) (Ch) 3, ICK 60-9 *w.* 5.6cm 4, ICK 59-3 *d.* 15.8cm 5, ICK 59-4 *d.* 14.4cm W 6, ICK 59-5 *d.* 14.2cm 7, ICK 59-2 *h.* 10.5cm
- 図 13 1, IS 172-4 *d.* 6.2cm 2, IS 172-1 *d.* 4.4cm 3, IT 138-3 *d.* 3.8cm SP 4, IS 172-2 *d.* 2.9cm (SP) 5, IT 140-1 *d.* 2.8cm (Ch) 6, IS 169-1 *l.* 2.9cm (SP) 7, IS 169-7 *l.* 4.1cm (SP) 8, IS 169-15 *d.* 3.4cm (SP) 9, IT 138-9 *d.* 2cm SP 10, IT 146-7 *d.* 1.9cm M 11, IT 146-5 *d.* 3.2cm M 12, IS 170-29 *l.* 2.1cm (SP) 13, IT 138-10 *l.* 2.3cm SP 14, IT 142-11 *l.* 2.9cm (W) 15, IT 134-9 *l.* 2.2cm (H) 16, IS 171-10 *l.* 5.2cm 17, IT 146-3 *l.* 8.4cm M 18, IT 138-11 *l.* 5.4cm (SP) 19, IS 171-2 *l.* 5.3cm 20, IT 140-6 *l.* 3.2cm (Ch) 21, IT 140-7 *l.* 2.6cm (Ch) 22, IT 140-8 *l.* 1.5cm (Ch) 23, IT 140-9 *d.* 0.7cm (Ch) 24, IT 146-8 *d.* 0.9cm M 25, IS 170-15 *d.* 0.4cm 26, IT 140-5 *l.* 1.9cm (Ch) 27, IT 159-9 *l.* 1.5cm 28, IS 170-20 *l.* 1.1cm 29, IS 170-22 *l.* 1.2cm 30, IS 169-21 *d.* 3.7cm 31, IT 146-12 *w.* 0.9cm M 32, IT 146-11 *l.* 4.4cm M
- 図 14 1, ICK 42-3 *l.* 11.4cm K 2, ICK 43-6 *d.* 5.8cm W 3, ICK 42-2 *l.* 10cm W 4, IT 140-10 *l.* 5.9cm (Ch) 5, ICK 60-6 *l.* 15.6cm K 6, IS 171-13 *l.* 3.7cm 7, IT 159-18 *l.* 7.9cm M 8, IT 157-9 *l.* 5.3cm M 9, IT 157-11 *l.* 12.6cm M
- 図 15 1, IT 146-13 *l.* 5cm M 2, IT 140-29 *l.* 3.1cm (K) 3, IS 172-17 *l.* 7.5cm 4, IT 138-15 *w.* 1.9cm SP 5, IS 172-12 *l.* 8.7cm 6, IS 172-14 *l.* 12.3cm 7, IT 142-16 *w.* 5.1cm (W) 8, ICK 57-7 *l.* 9.6cm W 9, IT 146-16 *l.* 5.5cm M 10, IT 159-7 *l.* 7.6cm M 11, IS 175-5 *l.* 12.5cm H 12, IT 140-18 *l.* 7.8cm (Ch) 13, IT 138-21 *l.* 10.2cm (SP) 14, IT 142-17 *l.* 9.6cm (W)
- 図 16 1, IT 138-20 *l.* 21cm SP 2, IT 140-20 *l.* 9.9cm Ch 3, IT 146-17 *l.* 8.2cm 4, IT 140-19 *l.* 5.4cm Ch 5, IS 168-15 *w.* 4.8cm (Ch) 6, IS 168-14 *w.* 3.6cm (H) 7, IT 142-18 *l.* 53.5cm W 8, IT 134-22 *l.* 52.2cm H 9, IT 157-8 *l.* 12.7cm 10, IT 159-19 *l.* 5.4cm

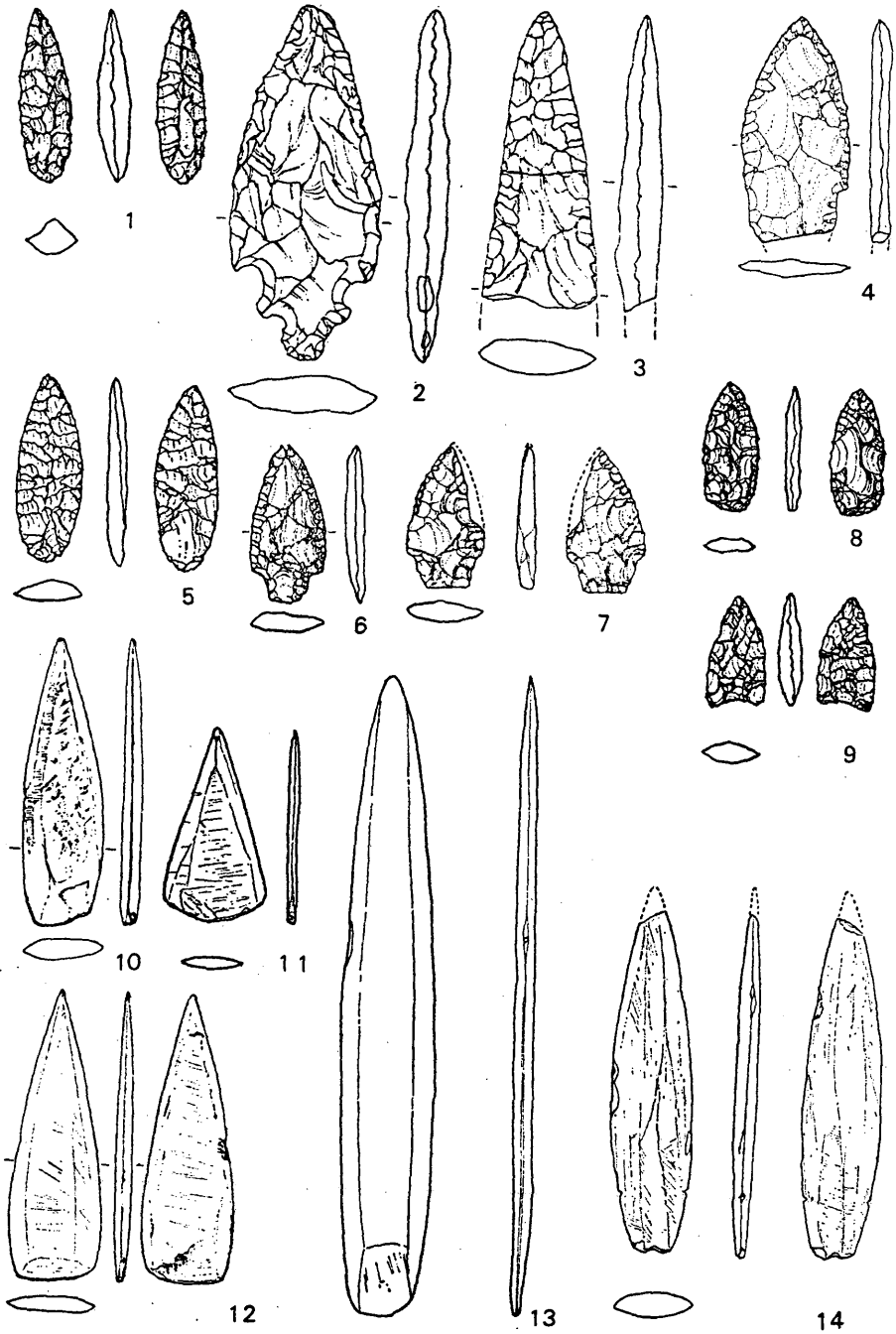


図2 1-9, Chipped points, 10-14, Ground points

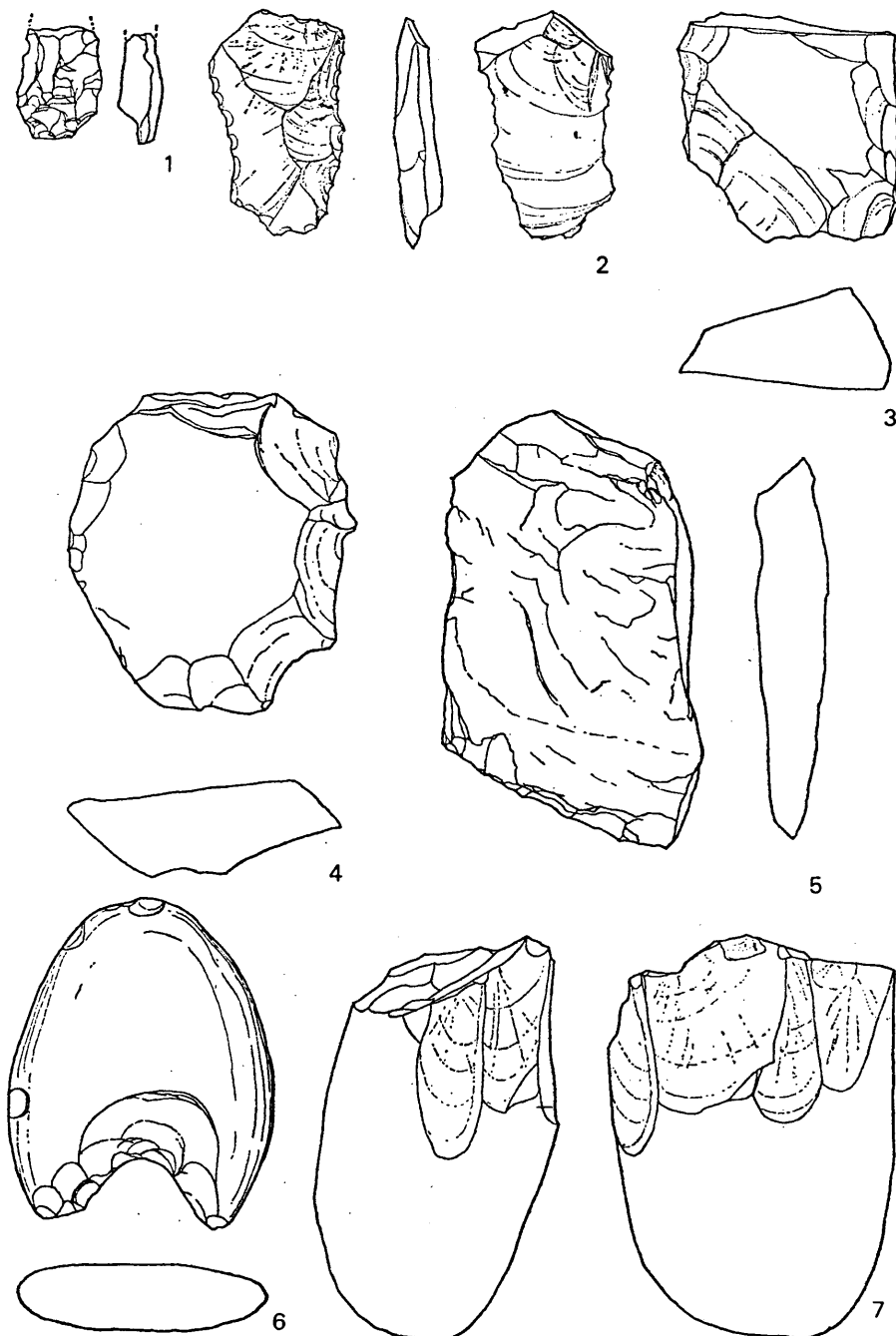


図3 1-5, Indefinite-shaped flakes, 6, Spokeshave 7, Core

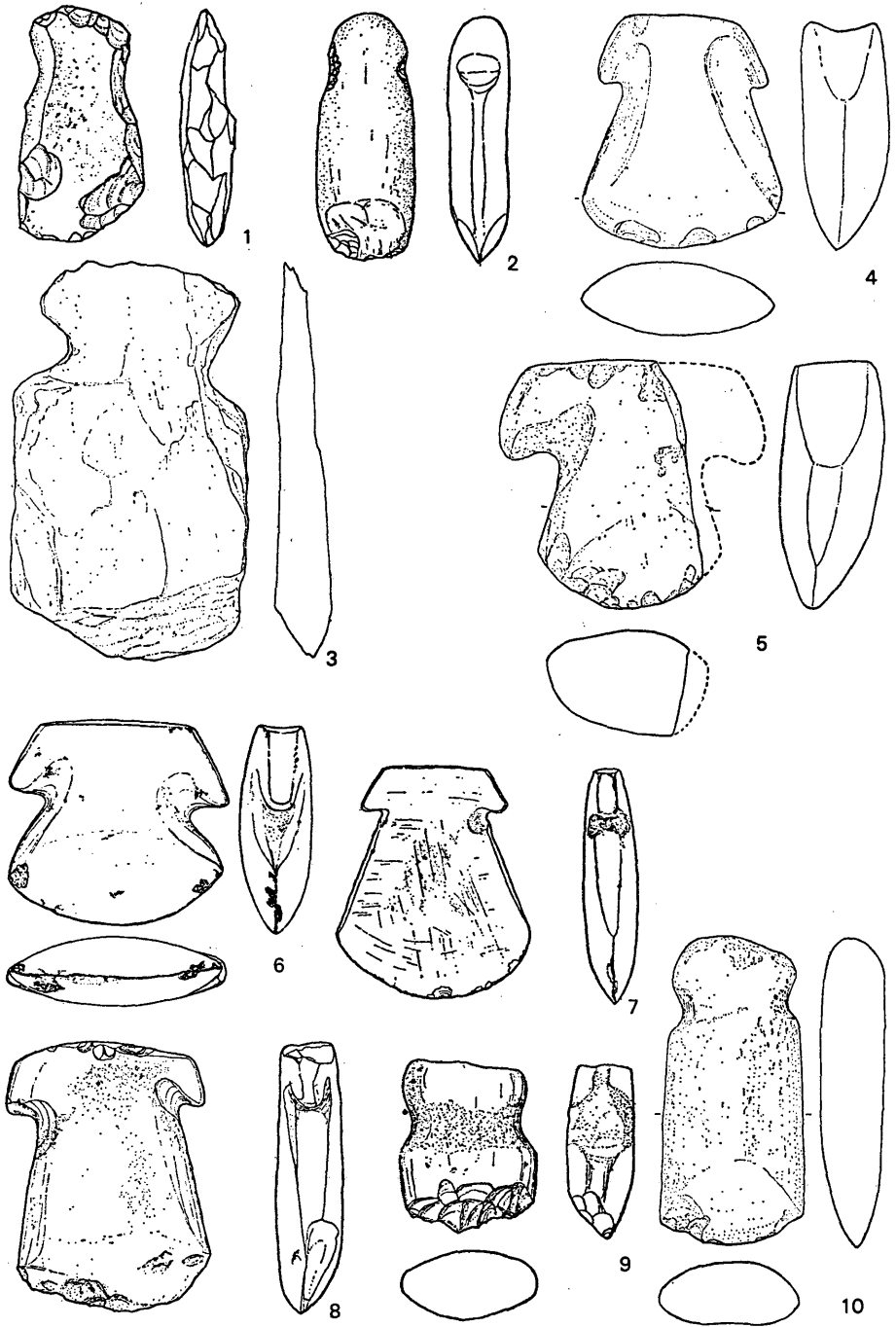


図4 1-3, Chipped axes, 4-8, T-shaped ground axes, 9, 10, Notched ground axes

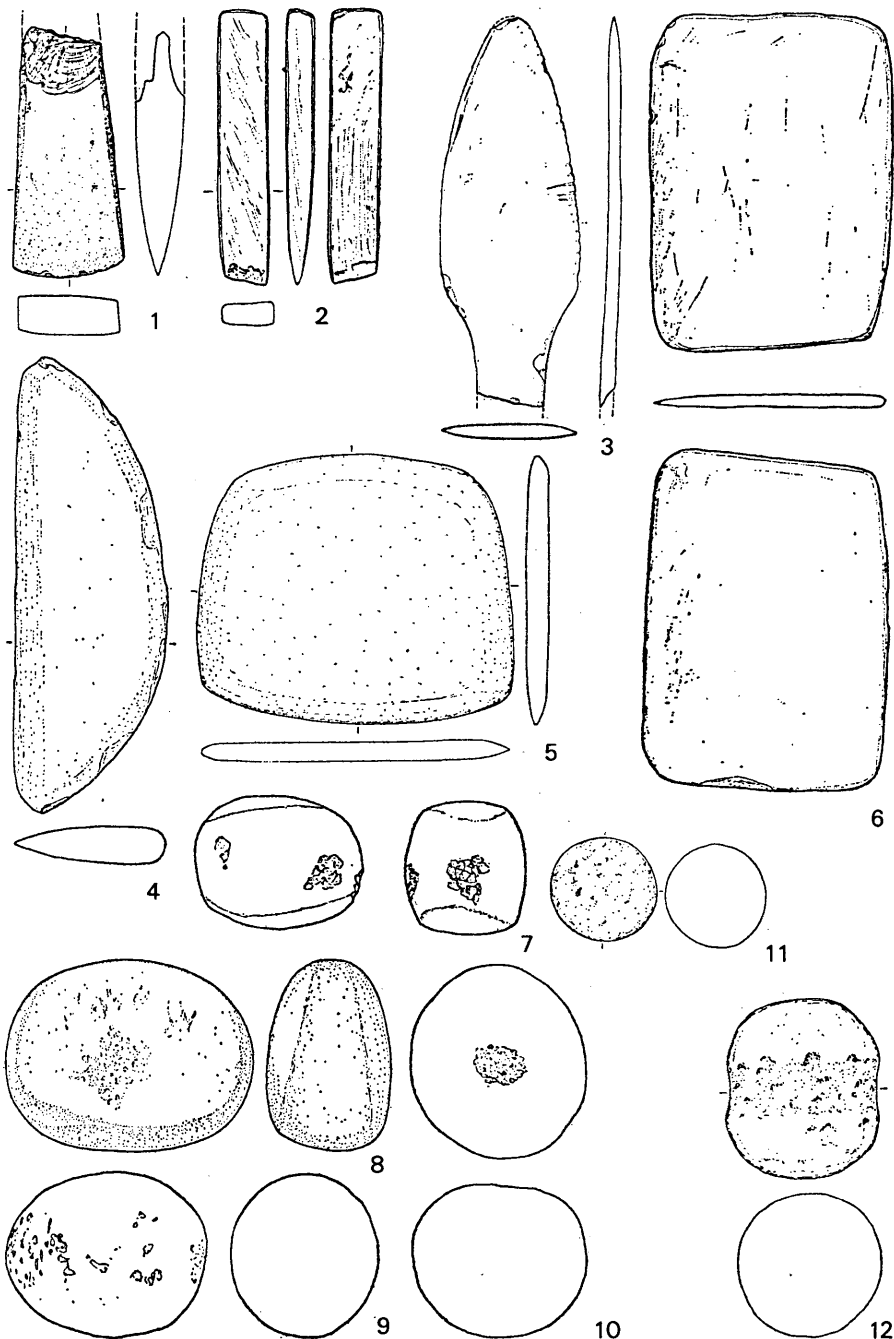


図5 1, Ground celt, 2, Chisel, 3, Ground knife, 4-6, Edged slates, 7-11, Hand pebbles, 12, Grooved pebble or bola

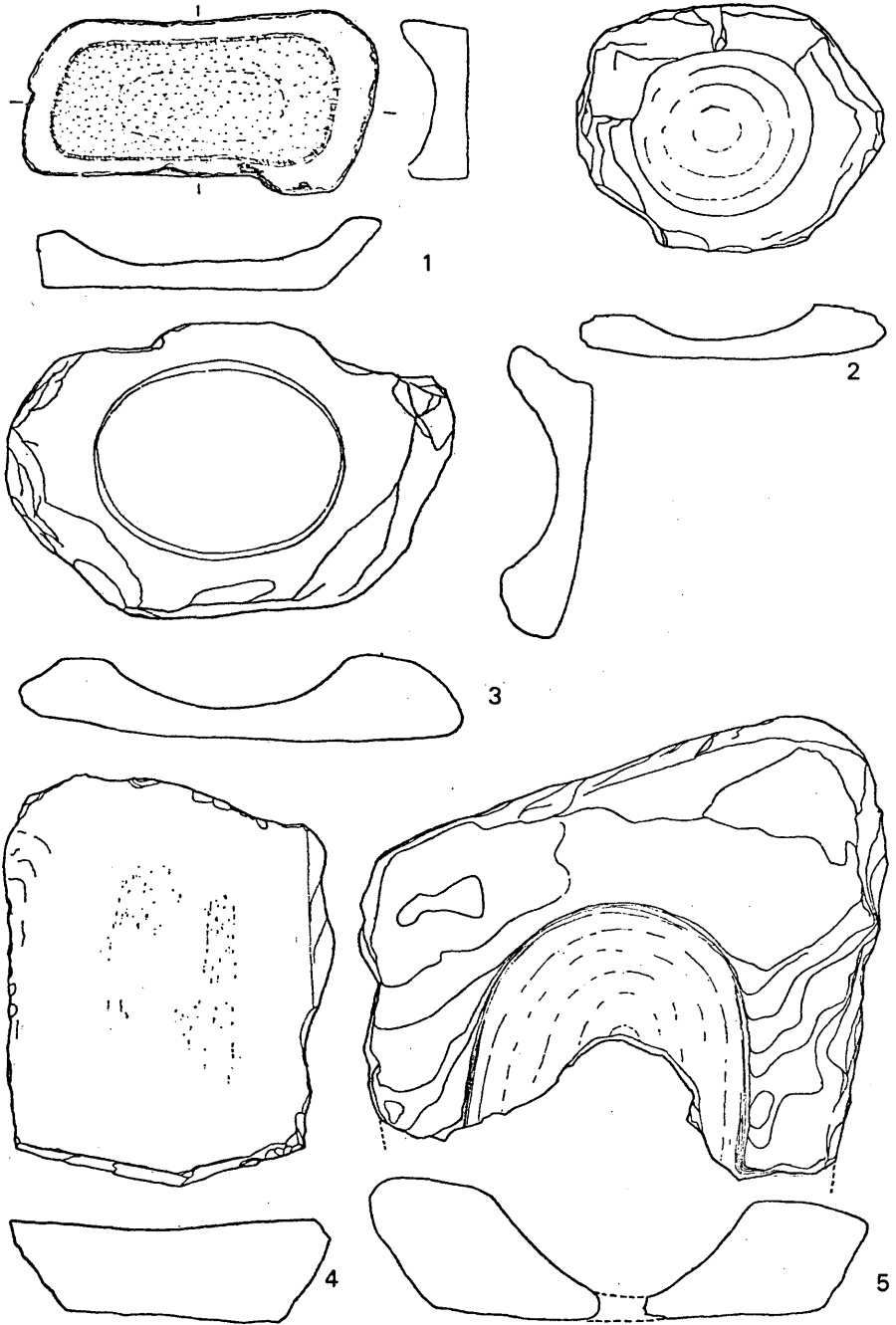


图6 1-5, Grinding slabs



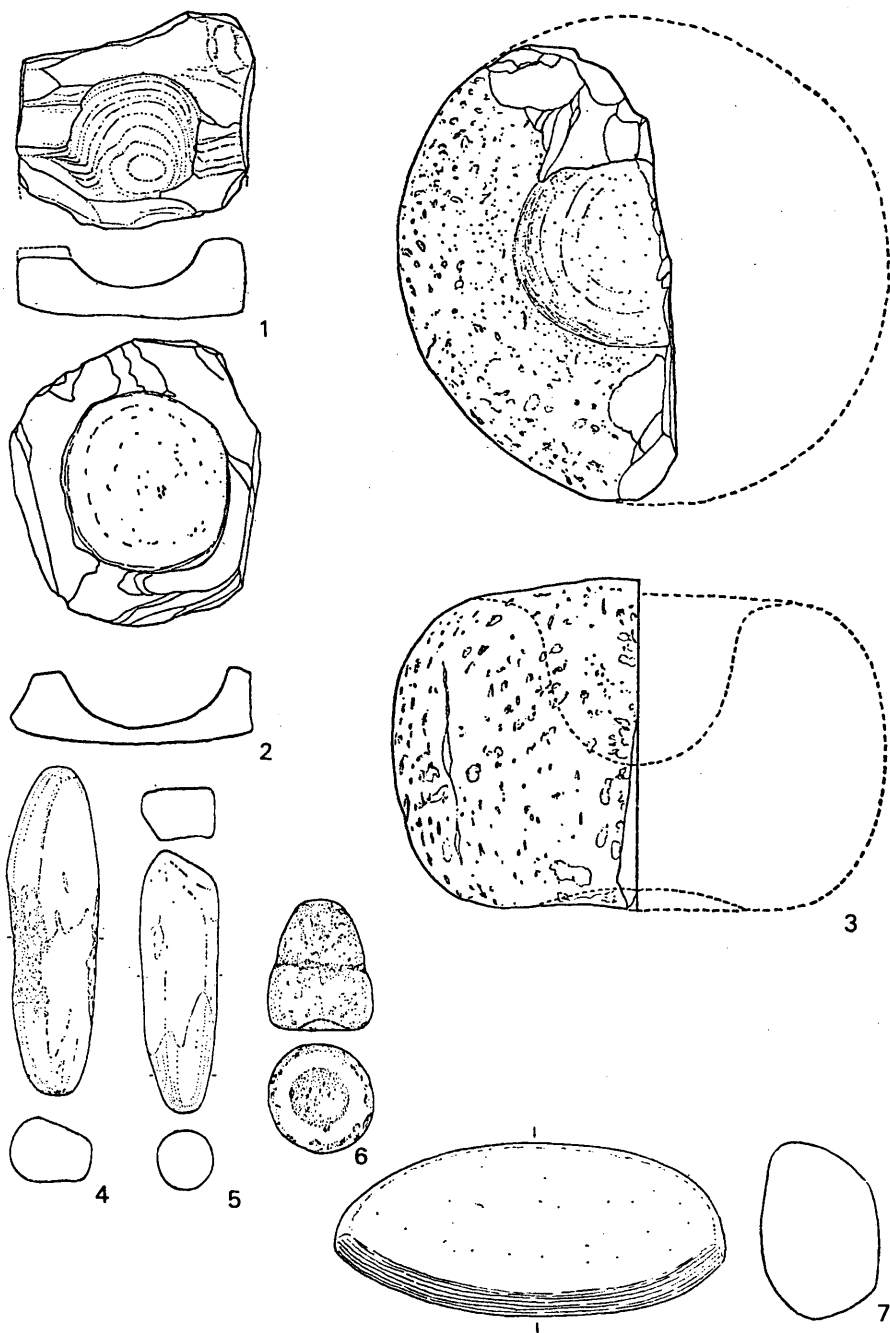


図7 1-3, Mortars, 4-6, Pestles, 7, Rocker-mill

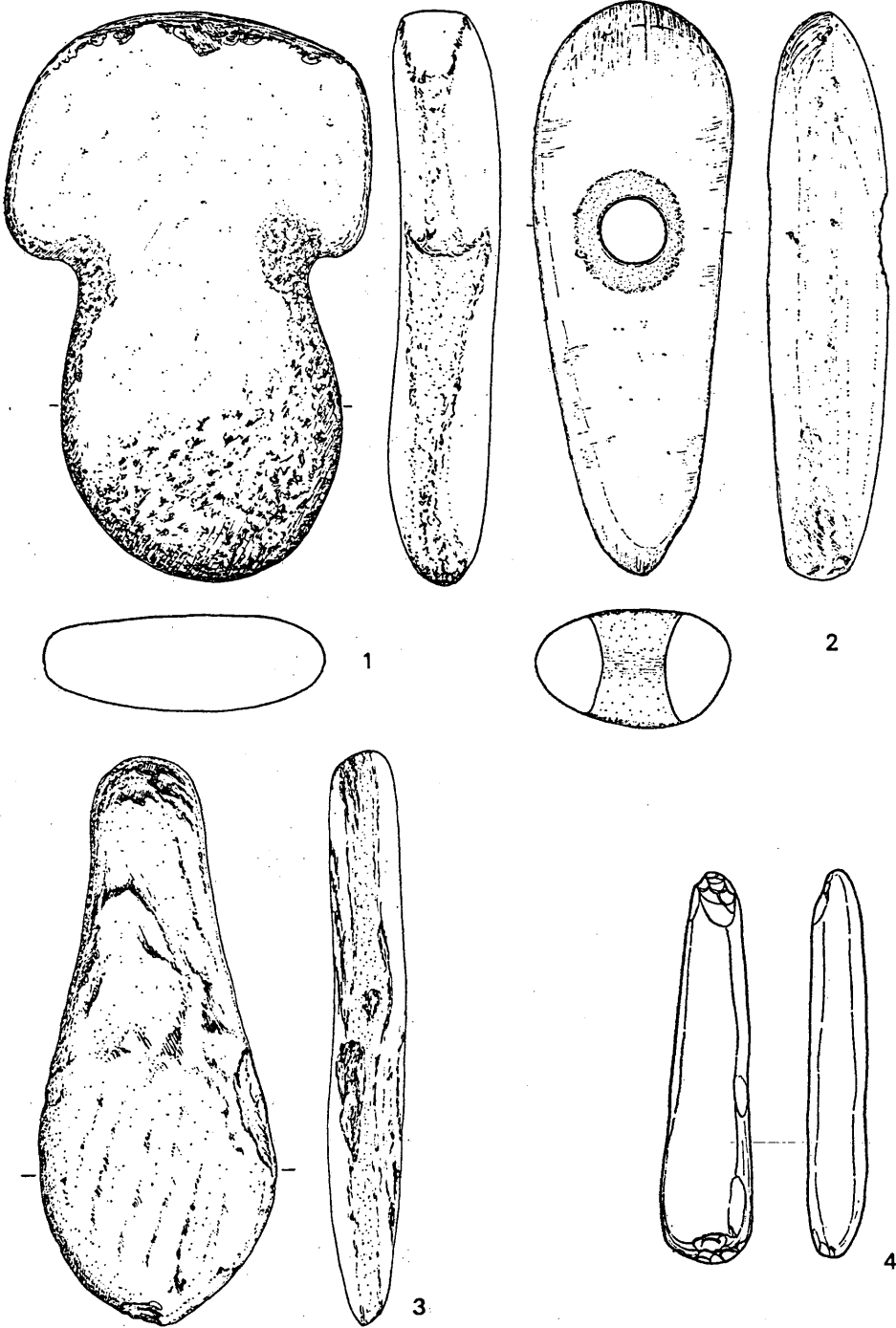


图8 1-3, Stone hammers, 4, Hammerstone

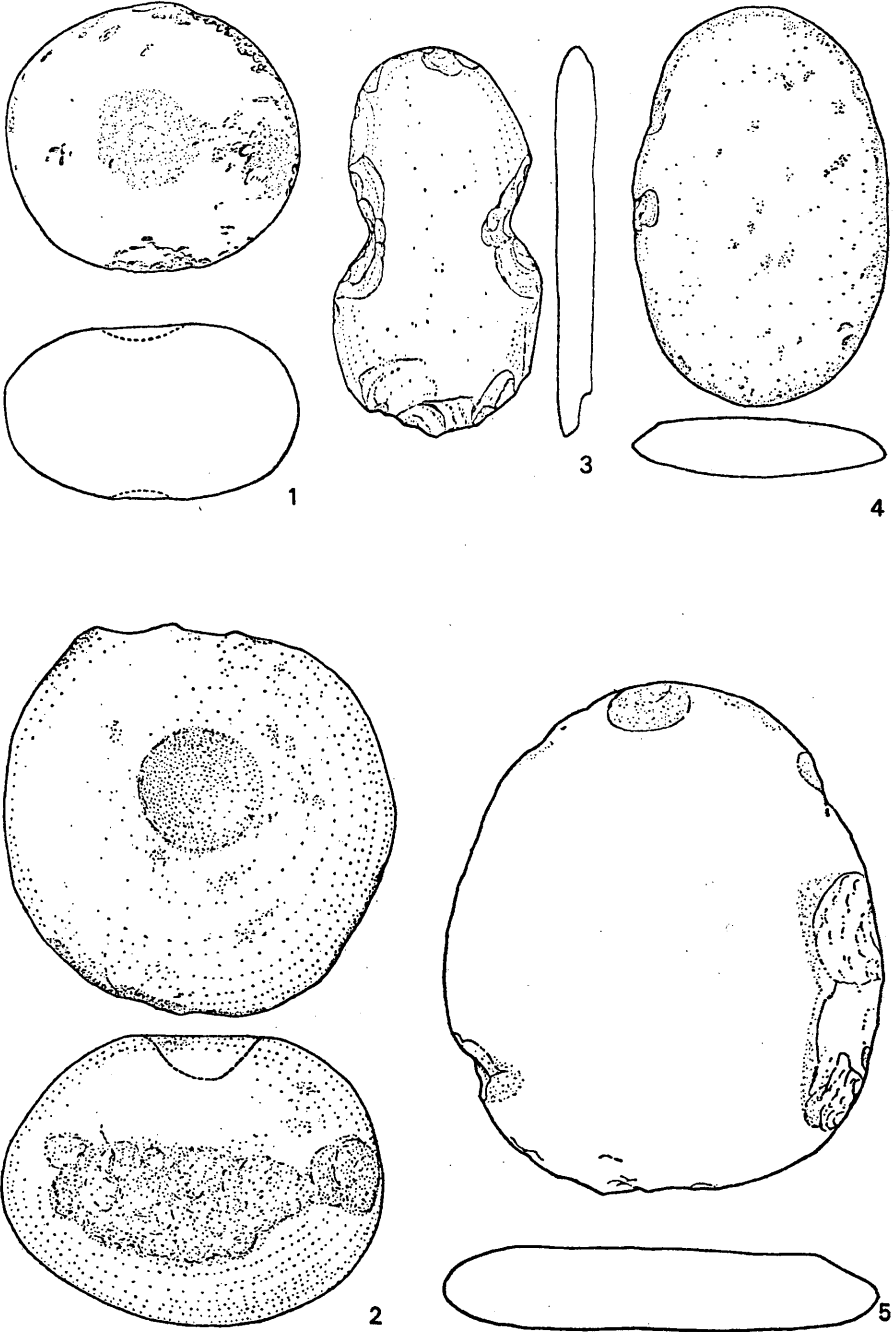


図9 1-5, Hammerstones

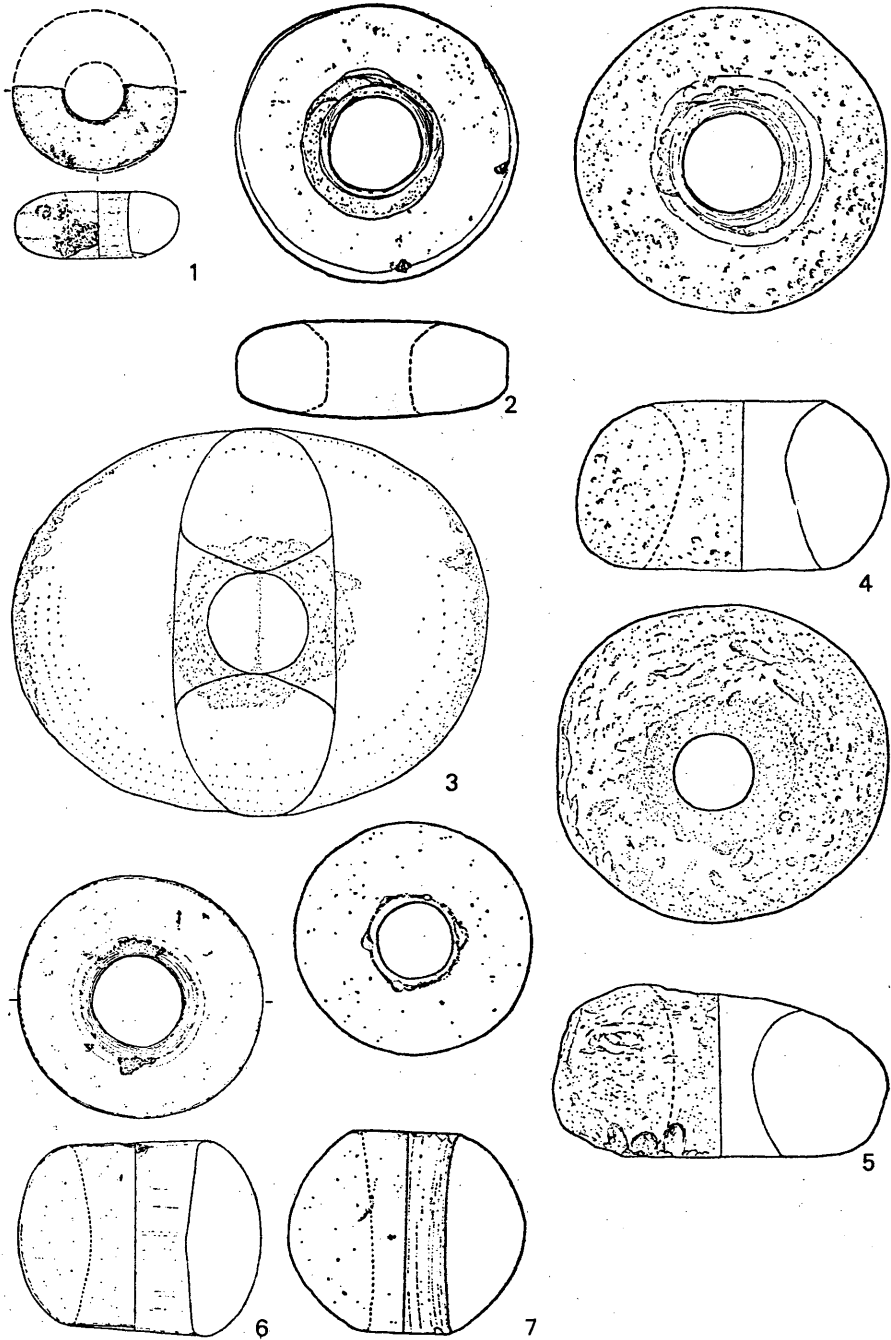


图10 1-7, Club heads

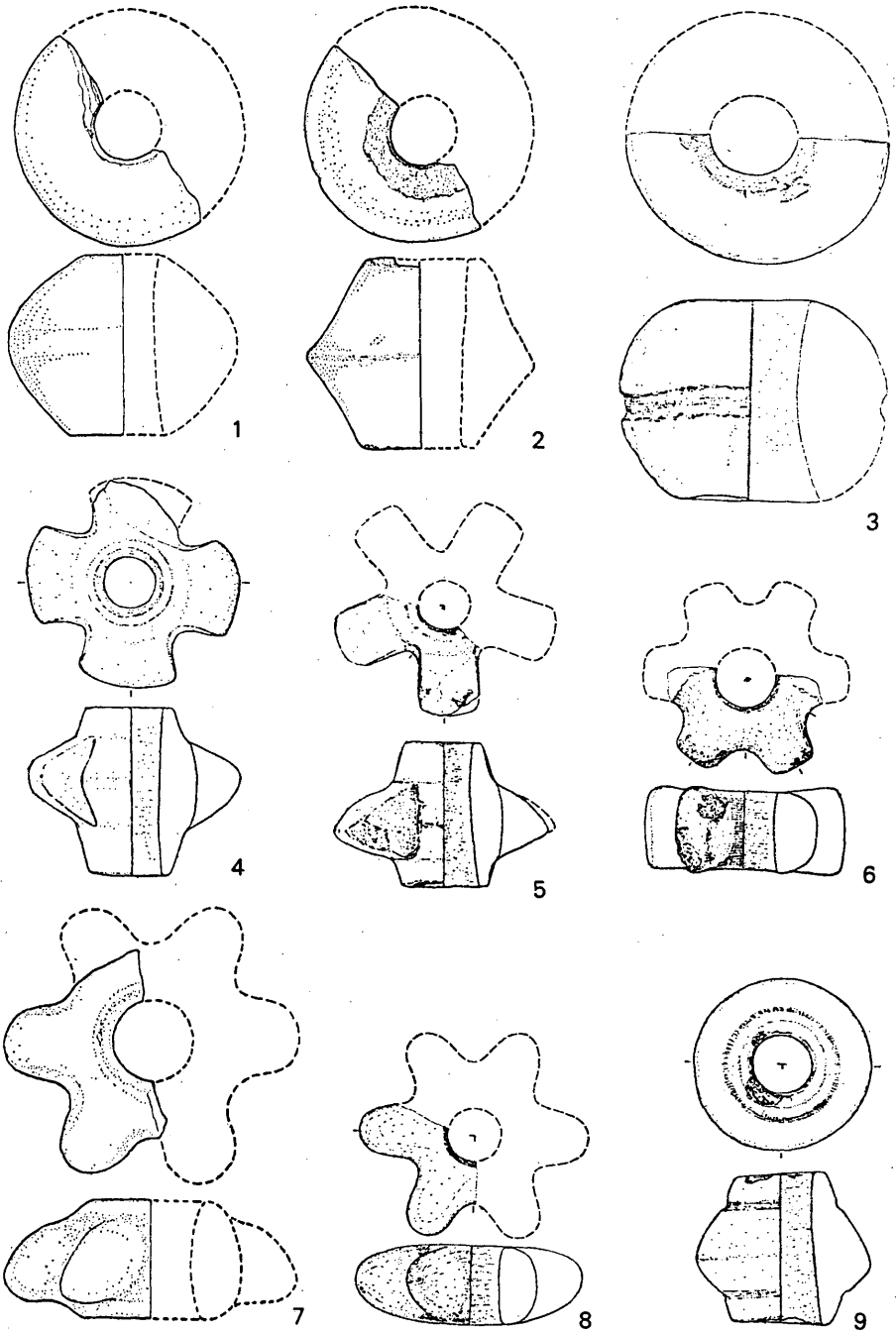


図11 1-9, Club heads

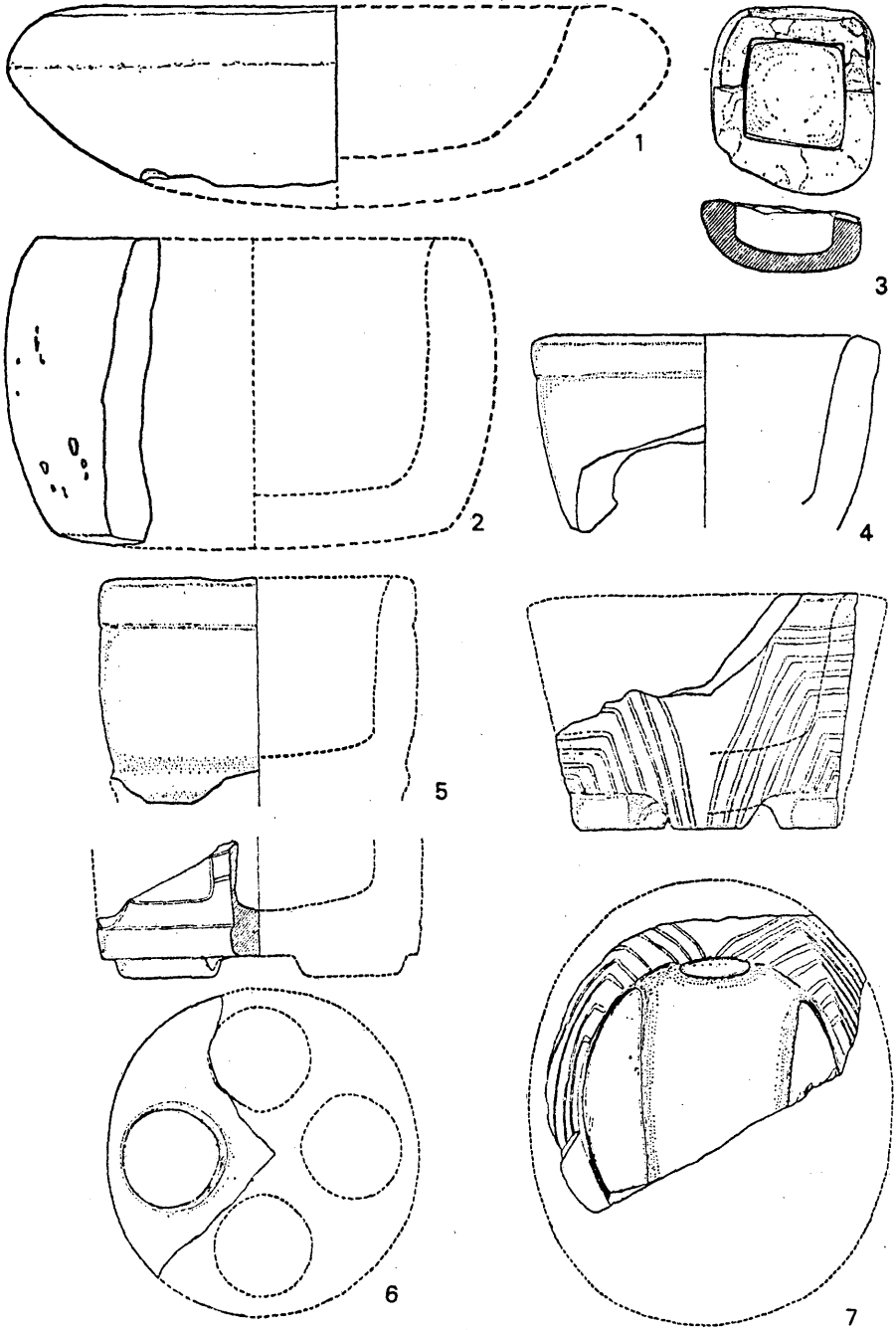


图12 1-7, Vessels

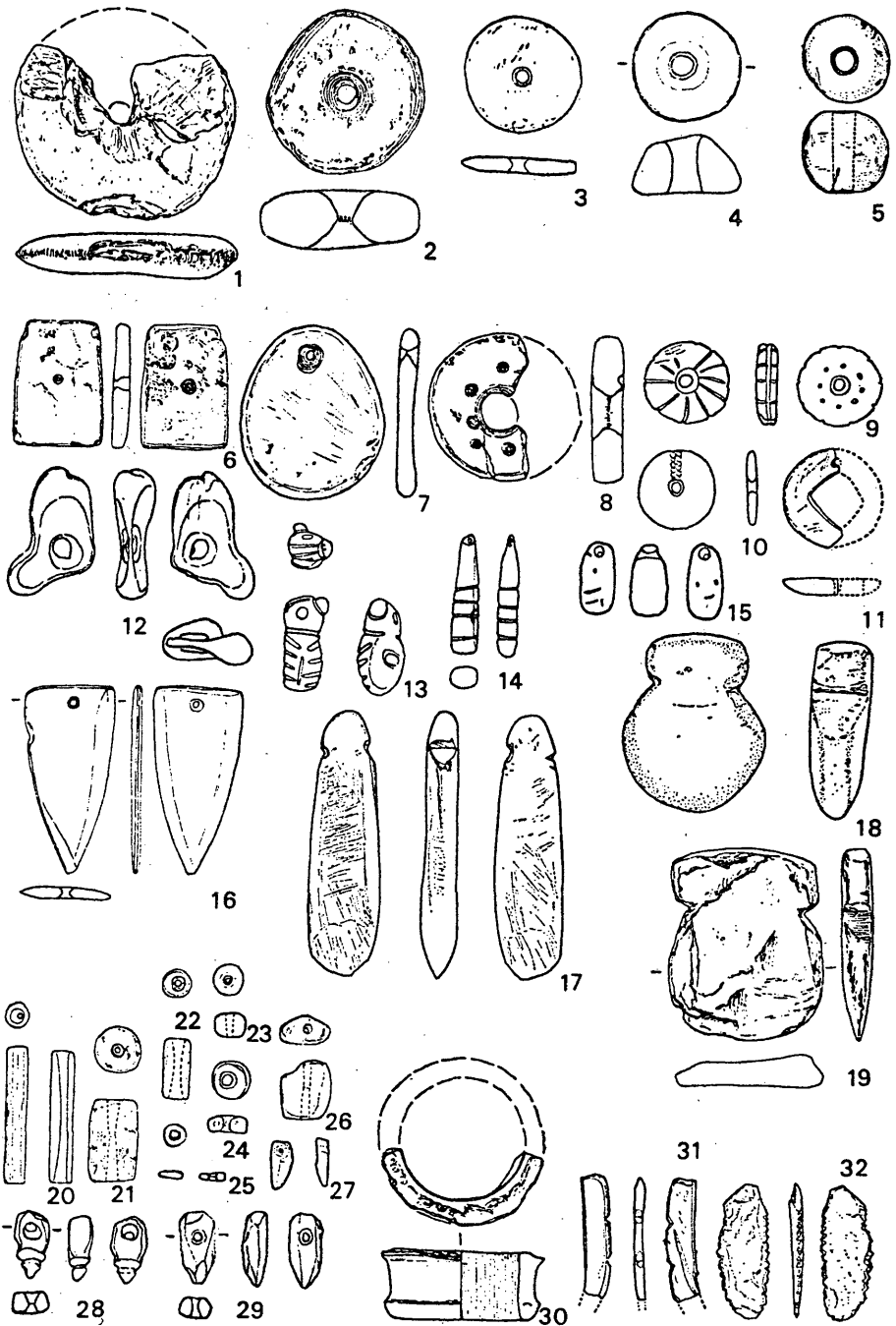


図13 1-5, Spindle whorls, 6-19, Pendants, 20-29, Beads, 30, Earring, 31, 32, Unperforated ornaments

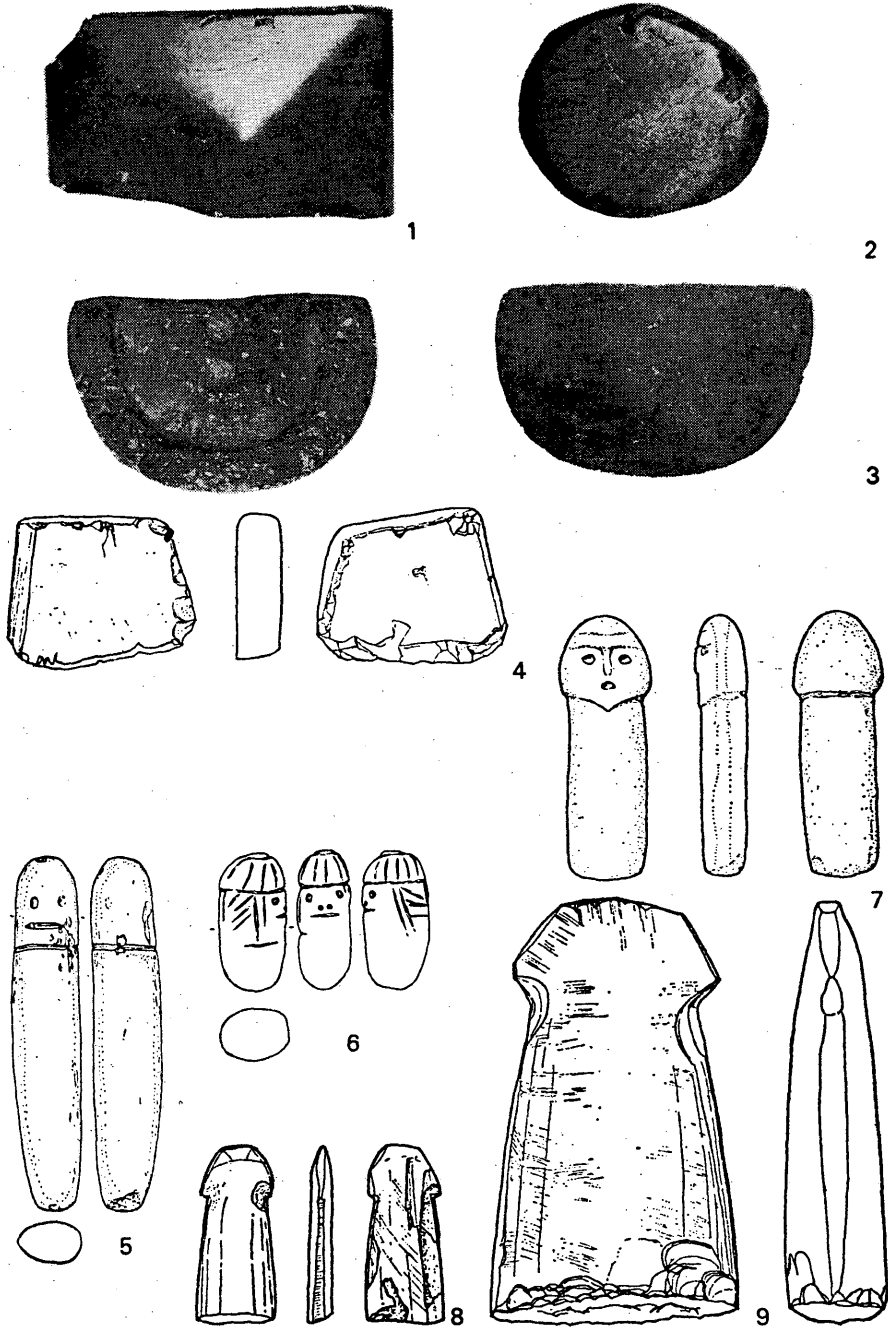


图14 1-4, Jet mirrors, 5-9, Figurines



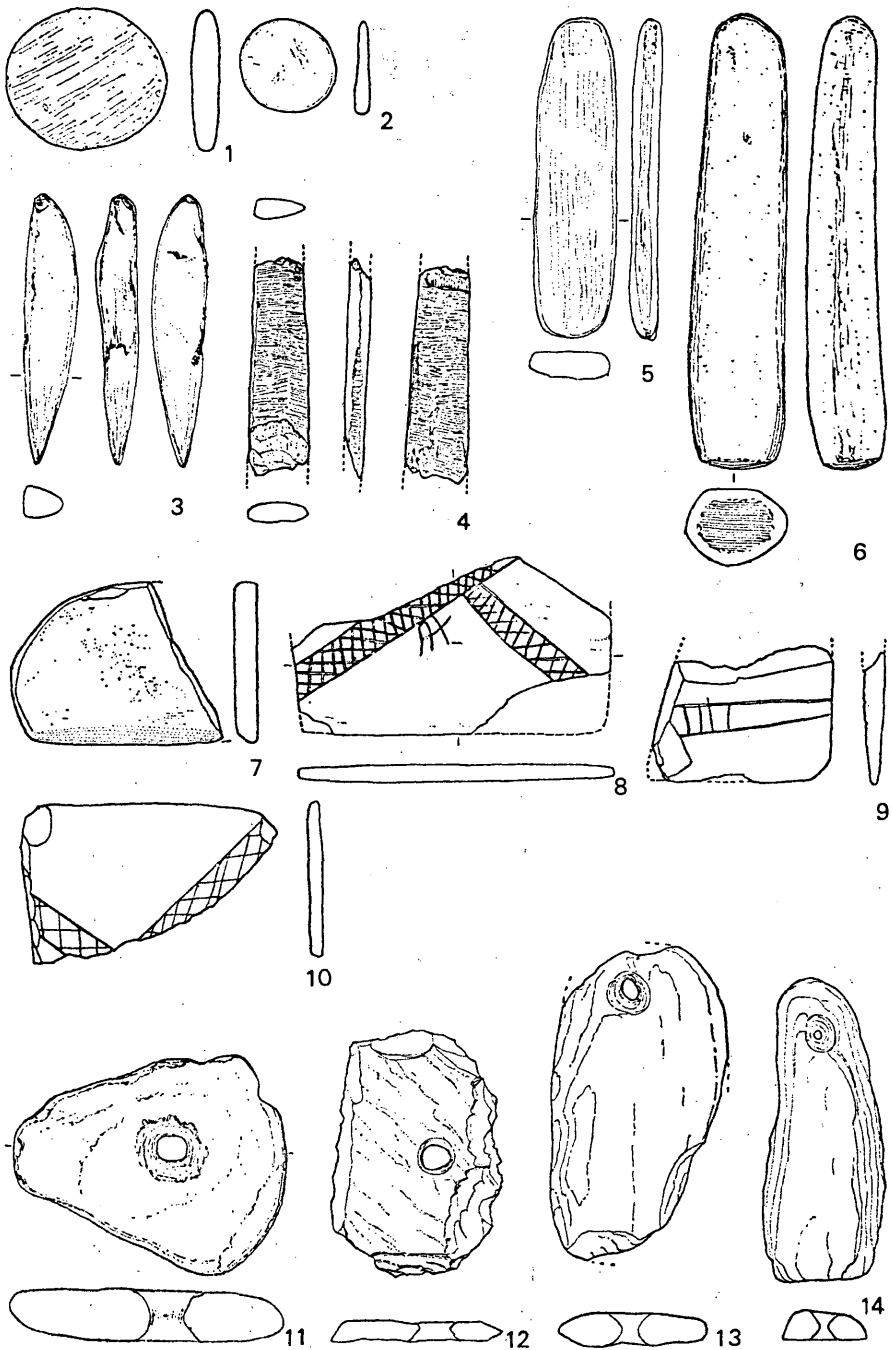


図15 1, 2, Disk-shaped objects, 3-6, Elongated objects 7-10, Flat tabular objects, 11-14, Perforated objects

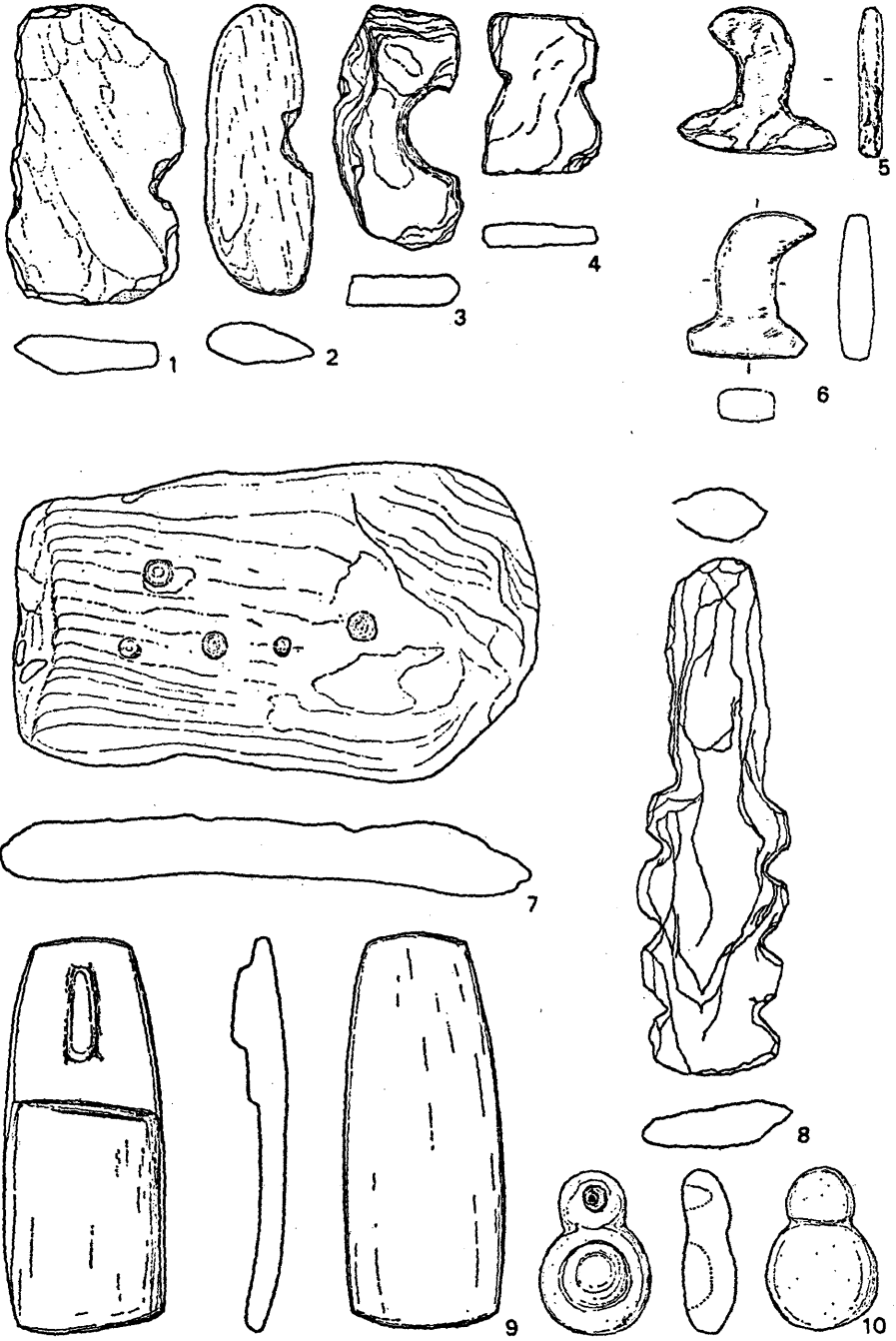


图16 1-4, Notched objects, 5, 6, J-shaped objects, 7, 8, Slabs 9, 10, Miscellaneous